

令和6年度 専門研修（断続研修） 保健体育研修講座プログラム

授業研究の考え方と進め方

福岡教育大学 教職大学院
本多壮太郎

R6.5.14（火） 於 福岡県体育研究所

よい体育授業は学級集団意識を高める

- 体育授業評価と学級集団意識→

強い相関関係

- 単元前後で体育授業評価が向上した児童→

学級集団意識がプラスに変容する傾向

- 単元前後で体育授業評価が停滞・下降した児童→

学級集団意識がマイナスに変容する傾向

実践の場で行うアクションリサーチ

アクションリサーチとは

- 実践の改善
- 実践の理解の改善
- 実践の場の改善

現場で起こる問題や課題を明確にして、解決するために、現場の指導者である教員を中心として、研究者や同僚などと協働的に行われる実践的研究方法

授業研究イメージ

社会の要請
教育の動向・目標・内容

学校の理念・方針

子どもの実態

自分の実践・興味

リサーチクエスチョン設定

仮説設定

計画・準備

記録・データ
収集

分析・評価
診断・省察

実践

仮説の
修正

計画の
修正・準備

学習指導要領の理解，研究成果に関する知見，講習・研修，コラボレーション

それぞれの「現場」で
どのような問題・課題を抱えていますか？
どのような研究興味を持っていますか？

社会の要請への
対応

教育の動向・目標・
内容の把握・具体化

学校の理念や
方針の具体化

児童・生徒
に関すること

自身の実践
に関すること

施設・設備
に関すること



授業研究イメージ

社会の要請
教育の動向・目標・内容

学校の理念・方針

子どもの実態

自分の実践・興味

リサーチクエスチョンの設定

計画・準備

研究的疑問

例 子どもたちの●●を伸ばしていくためにはどうすればよいだろうか？

仮説

例 ○○を◎◎する手立てを工夫することで、子どもたちの●●を伸ばしていけるであろう

仮説設定

学習指導要領の理解, 研究成果に関する知見, 講習・研修, コラボレーション

先行研究の読み込みや(批判的)検討, 研修, 指導主事の先生方や
研修仲間との意見・情報交換等を通して,

- 新たな知識, 方法を身に付ける
- 自分のこれまでの考えや方法を整理する
- 自分のこれまでの考えや方法を見直す
- 自分のこれまでの考えや方法を修正する
- リサーチクエスチョンを検討, 設定する
- 研究の枠組み, 実践の内容, データ収集・分析
方法実践や成果の実現性を検討し, 仮説を
設定する

アクションリサーチの特徴

コラボレーション

現場の教師を中心とし，大学・研究機関の研究者，同僚などによるプロジェクトチーム

実験的研究とは異なる

実験的なものではなく現場の問題を取り上げる状況により予定・計画は変更される長期的アプローチをとる

データ収集と考察

質的・量的データが多角的に収集され，解釈が求められる

アクションリサーチの意義・有効性

***通常の授業を一時停止して、実験的に研究に専念することは不可能**

***研究者による授業研究の成果を取り入れようとしても、指導者それぞれのスタイル、学習者の特性、学校の状況、学校を取り巻く環境などは異なる（検討はすべき）**

***普段の自分の教育現場・実践を対象とし、教育者・指導者としての資質向上を図る**

***教員が学び続け、進化し続けることは、学習者への動機付けにもつながる**

代表授業研

異なる現実の中で、異なる地域・校種の先生方が集まり、指導主事の先生のファシリテーションにより授業を省察し、知の共有を図り、それぞれの

「実践の改善」

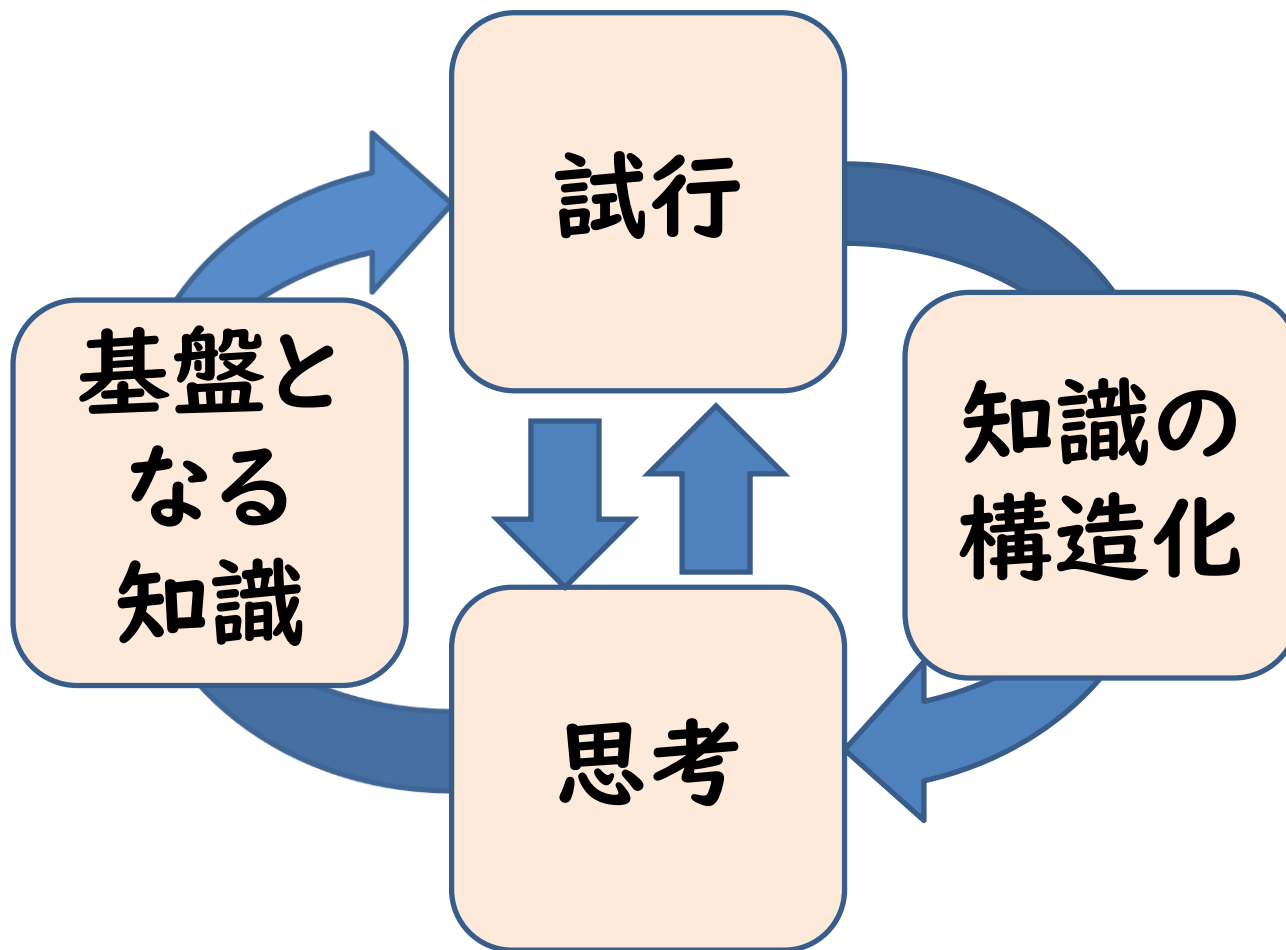
「実践の理解の改善」

「実践の場の改善」

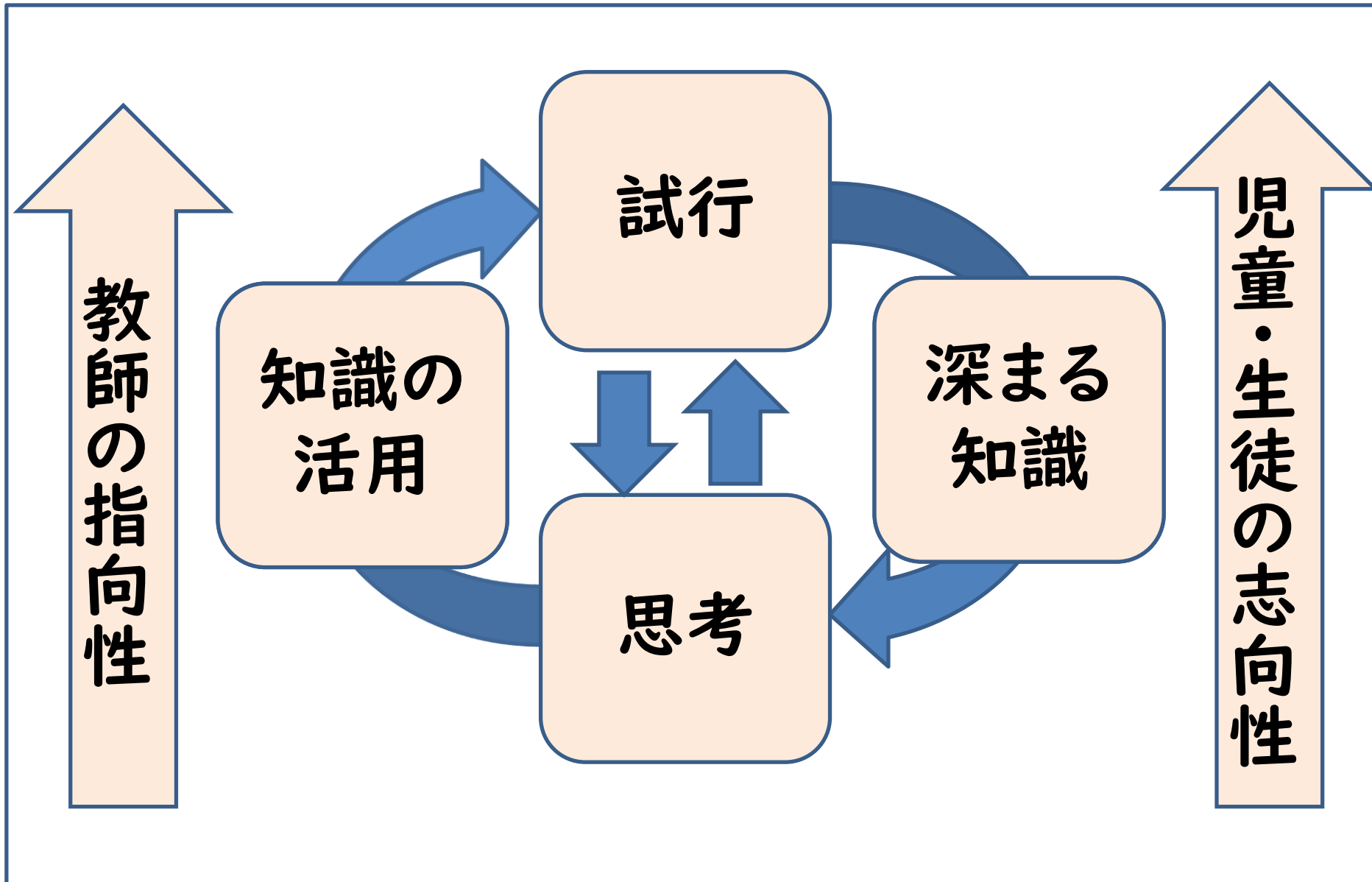
を図ります。

それがまた新たな知の共有→学びや力量の広がりにつながります。

授業づくり・実践における「しこう」



授業づくり・実践における「しこう」



小学校	
H28年度	自ら考え、運動の楽しさを味わう子どもを育てる体育科学習指導：ゲーム・ボール運動領域における仲間と協力して作戦を考える活動を通して
	運動の楽しさを味わう子どもを育てる体育科学習指導：フラッグフットボールにおける作戦ボードと作戦カードを使った学習を通して
	進んで運動を「する・見る・支える」子どもを育てる体育科学習指導：学び合い活動を位置付けた活動構成の工夫を通して
	自らの目標に向かって進んで活動する子どもを育てる体育科指導：子どものニーズに応える適切な場づくりを通して
	仲間と共に学び、運動する楽しさを味わう子どもを育てる体育科学習指導：ユニバーサルデザインの視点を取り入れた「わかる」「できる」授業づくりを通して
	「できた!」楽しさを味わう子どもを育てる体育科学習指導：器械運動領域における教え合い活動を位置づけた学習活動の工夫を通して
H29年度	自らの伸びを実感し、投げる力を高める体育科学習指導：見通す・振り返る学習活動と協働的な学習活動の工夫を通して
	よりよい動きを求めようとする子どもを育てる体育科学習：仲間と関わり合う活動を通して
	全ての児童が『深い学び』の中で各々の運動意欲・運動技能を向上させる体育科学習指導：理想を追い求められるゴール像』の設定と『グループタイムレベルアップ計画』に基づく器械運動の授業実践を通して

	仲間と協力し、運動の喜びを味わう子どもを育てる第6学年体育科学学習指導：ボール運動（ゴール型）における学び合い活動の工夫を通して
	友達と協力して課題を解決し、運動を楽しもうとする子どもを育てる体育科学学習指導：チェックシートによるCCタイムを位置付けた学習過程の工夫を通して
	「できた」喜びを味わう子どもを育てる体育科学学習指導：器械運動領域におけるICT機器を活用した授業づくりを通して
H30年度	仲間とともに運動する楽しさを味わう子どもを育てる体育科学学習指導：協働的課題解決学習に関わる活動を通して
	自ら運動に関わり、運動の楽しさを味わう子どもを育てる第3学年体育科リズムダンス学習指導：学習意欲を持続させる学習展開と交流活動の工夫を通して
	主体的に運動の楽しさを味わう子供を育てる体育科学学習指導：子どもお自身が必要と感じる「かかわり活動」を位置付けた授業を通して
	仲間と共に主体的に運動に関わる児童を育てる高学年陸上運動の指導：3つのしこう（志向, 思考, 試行）活動を展開するための工夫を通して
	主体的に運動に取り組む子どもを育てる体育科学学習指導：思考と試行を繰り返した授業づくりを通して
	自己の課題を見つけ、よりよい動きを求めようとする力を育てる体育科学学習指導：ボール運動（ゴール型）における友だちと関わり合う活動を通して
R元年度	マット運動における、主体的に技能を高める子供を育てる高学年体育科学学習指導：思考活動を位置付けた学習過程の工夫を通して
	運動の楽しさを実感し、意欲的に運動に親しむ子供を育てる体育科学学習指導：友達と関わり合い、課題を追求するボール運動系（ゴール型）の学習過程を通して

	分かってできる子供を育てる体育科学習指導：知識の習得及び活用に重点をおいた機械運動の取組を通して
	自ら課題を見つける子供を育てる器械運動指導：学習過程の工夫と課題解決のための支援の工夫を通して
	自ら課題を見つけ、運動の楽しさを味わう子供を育てる体育科学習指導：仲間とともに学び合う活動を通して
R3年度	運動の楽しさを味わう子どもを育てる第一学年体育科「ボールゲーム」の学習指導：学ぶ意欲を高める学習活動の工夫を通して
	目指す動きを身に付けた子供を育てる第3学年マット運動の学習指導：ペアで教え合う課題解決活動を通して
	課題の解決に向けて意欲的に運動に取り組む子供を育てる第5学年バスケットボールの学習指導：3段階の活動構成の工夫を通して
	主体的に運動課題に取り組む子供を育てる第5学園跳び箱運動の学習指導：技のポイントを意識した学び合いを通して
	楽しく運動に取り組む児童を育てる体づくりの運動遊びの学習指導：心も身体も弾むリズムジャンプを取り入れた、個別最適な学びを通して
	動きを高めながら、運動の喜びを味わう児童を育てる器械運動の学習指導：学び合い活動の工夫を通して
R4年度	仲間と関わりながら動きを高める子どもを育てる第6学年体育科教育：段階的な評価活動を取り入れた学習過程の工夫を通して
	記録に挑む楽しさを味わう子どもを育てる第6学年走り高跳びの学習指導：課題解決につながる場の工夫を通して

	跳躍力を向上させる子どもを育てる第5・6学年走り幅跳びの学習指導：課題解決に向けた学び合いを通して
	運動する楽しさを味わう子どもを育てる鉄棒を使った運動遊びの学習指導：他者と協働する活動を通して
	楽しみながら体の動きを高める子どもを育てる体づくり運動の学習指導：4段階の単元構成の工夫を通して
	運動の楽しさを実感する子どもを育てる第3学年体育科学学習指導：動きを可視化した振り返り活動を通して
R5年度	他者と協力しながら運動する楽しさを味わう子どもを育てる第4学年体育の学習指導
	運動の持つ楽しさを味わう子どもを育てる第1学年における鉄棒運動遊びの学習指導
	元気はつらつな子供を育てる第5学年体育科学学習指導
	主体的に自己の運主体的動課題を解決する子供を育てる第5・6学年器械運動指導
	ともに学び合い、運動の谷示唆を味わう子どもを育成する第6学年体育科学学習指導
	意欲的に課題解決に取り組む子供を育てる体育科指導学習指導
	運動に対する意欲をもち続ける子供を育てるマットを使った運動遊びの学習指導

中学校	
H28年度	運動有能感を高める保健体育科学習指導：デッサン人形を活用したアドバイス活動を通して
H29年度	意欲的に球技運動に取り組む生徒を育てる保健体育科学習指導：簡易ゲームを通して
	「わかった」「できた」喜びを実感できる武道（剣道）学習指導：協働的問題解決学習を位置づけた授業づくりを通して
H30年度	学びを深め、動きの高まりを実感できる保健体育科学習指導：課題解決学習過程におけるICTの活用を通して
	武道（柔道）領域における、自らが運動の喜びや楽しさを求め、生涯にわたり健やかな心と体を育てる保健体育科学習の在り方：生徒指導の3つの留意点を位置付けた授業を通して
	生涯にわたり、仲間とともに主体的に運動やスポーツに親しむ資質・能力を育む保健体育科学習指導：運動量を確保し、できた喜びを実感できる授業づくり
R元年度	思考力・判断力・表現力を高める創作ダンスの指導：「つなぐ」ことに視点をあてた3つの対話活動を通して
	運動の課題解決力を身につける生徒を育てる保健体育科学習指導：ICTの活用を通して
R3年度	合理的な解決に向けて思考し判断する生徒を育てる球技（バスケットボール）の学習指導：視点を明確にした交流を通して

	空間を意識した動きを高める球技（バスケットボール）の学習指導：自分の思考を広げる交流活動を通して
R4年度	健康・安全に対する課題を発見し、健康的な生活に取り組む生徒を育てる保健の学習指導：生活を振り返り、自己の思考を広げる交流活動を通して
	わかった・できたを実感できる武道（柔道）の学習指導：振り返りと効果的なICTの活用を通して
	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、積極的に運動に取り組む生徒の育成を図る球技指導：話し合い活動の充実を通して
R5年度	仲間と協力し合い、勝敗を競う楽しさを味わう生徒を育てる球技の学習指導
	技能の上達に楽しさや喜びを実感でき、意欲的に取り組む生徒を育てる剣道の学習指導
	わかった・できたを実感できる器械運動（マット運動）の学習指導
特別支援学校	
H28年度	知的障害特別支援学校における滑らかな動きができる生徒を育てる体育科学学習指導の在り方：リズムアナログを取り入れたフットベースボールの取り組みを通して
H30年度	知的障がいのある生徒の投げる動きを高める保健体育科学学習指導：運動アナログを取り入れた活動構成の工夫を通して
R元年度	仲間と関わりながら主体的に運動する児童を育む体育科学学習指導：体づくり運動と話し合い活動を通して

R3年度	ヘルスプロモーションを意識できる生徒を育てる保健の学習指導:トレーニングシートの活用を通して
R4年度	「楽しい・できた」を実感できる生徒を育てる中学部体づくり運動:仲間とともに楽しむチャレンジ活動を通して
高等学校	
H28年度	「主体的に課題解決に取り組む生徒」を育てるバドミントンの学習指導:コミュニケーション活動を通して
	運動の楽しさを味わうことができる子どもを育てる武道(剣道)学習指導:攻守の場面を分けたルール工夫を通して
	知識を活用して自らのスポーツライフを創造しようとする生徒を育てる体育理論の学習指導:アクティブラーニング型授業を展開して
H29年度	知識を競技の場に生かそうとする生徒を育てる体育科学学習指導の工夫:「スポーツ概論」におけるモデルケースと 自己との比較を通して
	運動課題を解決して仲間に貢献できる生徒を育てるネット型球技学習指導:ICTと兄弟チーム制を活用したグループ活動を通して
H30年度	生涯にわたり仲間とともに主体的に運動やスポーツに親しむ資質・能力を育む保健体育科学習:知識をつなぐ学習活動とICTを活用した協働的な学びを通して
	生涯にわたり、仲間とともに主体的に運動やスポーツに親しむ資質・能力を育む保健体育学習:体育理論と体育の領域の関連に着目した授業づくり
R元年度	主体的に運動やスポーツに親しむ資質・能力を育む保健体育学習:表現力を高める指導方法の改善に着目した授業づくり

	発信力を育てるバドミントンの学習指導：ICTやジグソー法の活用を通して
	主体的に運動やスポーツに対する学びを深める資質・能力を育む体育科学学習指導：ICTを活用した協働的課題解決学習を通して
R3年度	健康課題について考えを深めることができる生徒を育てる保健の学習指導：ICTを活用した学習活動を通して
	主体的に運動に取り組む生徒を育てる球技・ネット型「テニス」の学習指導：全員が活躍できる学び合いを通して
	運動の楽しさや喜びを味わう生徒を育てる球技（サッカー）の学習指導：動きを分析する活動を通して
R4年度	他者に伝えることができる生徒を育成する体づくり運動の学習指導：ステップアップ表現活動を通して
	他者を支える生徒を育成するための球技の学習指導：学習シートを用いた話し合い活動を通して
R5年度	健康を支える環境づくりについての課題を解決するための実践力を育てる保健学習指導
	「楽しい・できた」を実感できる球技（ソフトボール）の学習指導

児童・生徒の実態, 自身の実践の振り返り→主題設定

●(小4)「体育をしているとき, どうしたらうまくできるかを考えながら勉強していますか」では、「どちらともいえない」「いいえ」と答えた子供は10名(45%)であった。これまでの授業で運動学習時間の確保を意識していたため, 児童が思考しながら主体的に取り組む場面が少なかったと感じる

→児童が「跳び箱運動を通して, 基本的な技を習得するとともに, 自分の動きの課題を見付けたり, 課題の解決のための活動を選んだり, 考えたことを友達に伝えたりする児童を育成することは意義深い

●(中2)(マット運動を)「好きでない」と回答した生徒(9/20)にその理由を尋ねると、「どう動けばいいのかわからない」や「練習の方法がわからない」等であった。

→以上のことから, 器械運動(マット運動)を通して, 苦手な生徒にも「わかった」「できた」といった成長を実感できる学習指導を行うことは意義深い

●(小1) 子供に動きを身に付けさせるために、教師が提示した場で運動を行わせることが多かった。その結果、楽しく活動することはできているが、自分がどんな動きをしているか把握できていないため、互いに動きのよさを伝え合ったり、動きの高まりを実感したりすることに至らず、運動に対する意欲を持ち続ける姿に迫ることはできなかった

→全ての子供が運動の楽しさを実感することで、運動に対する意欲を持ち続けることができるようにしたいと考え、本主題を設定した

●(高1)「ソフトボールは得意ですか」の質問に「とてもそう思う・そう思う」と回答した生徒は56%と低い結果となった。さらに体育の授業の意見として、「開始時の集団走がきつい」「補強運動がきつい」など、授業中に苦手と感じる場面の記述があった

→苦手と感じる生徒に対して「できた」を実感させることで、楽しいと感じる生徒が増えると考えたため、本主題を設定した

●(中2)「自分にはよいところがあると思う」という質問に対して、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した生徒が24%であった。また、R4年度体力・運動能力・運動習慣等調査においては、「なんでも最後までやりとげたいと思う」の質問に対して16%が「思わない」と回答している

→剣道の授業を通してすべての生徒に「技ができた」「自分はできるかも」「またやってみたい」という達成感を味わわせることで、意欲的に授業に取り組む生徒を育成したいと考え、本主題を設定した

●(小4)体育の授業において、他者と動きを見合う活動や練習の成果を見せ合う発表会形式に対して、苦手意識や不安を訴える児童も多くいた。それは、これまでに他者と協力して活動したり、自他の成長を喜びあったりする経験が少ないことが原因として考えられる

→自分の動きの変容を他者から認めてもらったり、自分の声掛けや支援によって他者の動きが変容したりする経験を通して、他者と協力しながら運動する楽しさを味わうことで豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができると考えた。以上の2点から、他者と協力しながら運動する楽しさを味わう子どもを育てることが重要と考え、主題を設定した

●(小1) 本学級の子どもは、体を動かすことは好きだが、友達と一緒に運動に取り組む経験が少ないと考えられる。また、コロナ禍の影響もあり、幼児期に友達と協力する経験が不十分である。発達の段階として自分中心に考え、友達の良さを認めることがあまりできておらず、友達とアドバイスをし合ったり、課題を解決したりする経験が乏しい

→友達と一緒に運動遊びに取り組み運動遊びの楽しさに触れながら、3つの資質・能力を育成する必要があると考える

●(小6) 種目の楽しさを味わうにあたって、「技能」や「他者との関わり」によることが大きいことがわかった。多くの児童が友達との関わりで学習の理解が深まることがわかった

→他者と共に学び合い、運動の楽しさを味わうことが意義深いと考える

●(中3) 運動に苦手意識をもっている生徒が23%いることがわかった。また、「仲間と協力して課題を解決していますか」という質問では、「している」「どちらかといえばしている」と回答した生徒は30名中21名であった

→すべての生徒に、球技という集団種目を通してグループで協力し合い、1人1人の課題を解決して達成感を味わってもらいたいと考え、本主題を設定した

●(小5・6)「器械運動は好きか」について「嫌い」「やや嫌い」と答えた子どもは36.4%であった。その理由は「技ができないから」「なぜできないのかわからないから」「技のポイントがわからないから」などが挙げられ、課題解決につまずきがあることがわかった。また、「自分の運動課題をわかって活動しているか」について「あまりしていない」「していない」と答えた児童が45%であった。これは、運動が好きではあるが、課題を解決しようとしている子どもは少なく、どのように課題可決をしたらよいかもわかっていないことが考えられる

→課題解決の仕方を知り、技ができるようになることで、器械運動が好きな児童が増えるので、主体的に運動課題を解決する子どもを育てることは大変意義深いと考える

●(小5)休み時間に外遊びをする子どもが固定化されており、個々での体力には差が見られる。体育科学習において「できなことに挑戦するのは好きか」という問いに対して、25%の子どもが「あまり好きではない」と回答しており、自信がもてずに主体的に運動に関わることができていない子どもが多いことがわかった。「動きのポイントを考えたり、教えたりすることができるか」という問いに対しては、約50%の子どもが「あまりできていない」と回答している。これは、動きをイメージできずに、運動や友達との関わりに消極的になっているためと考える

→体育科学習において、子どもたちの「これならできそう」「もっとやってみたい」「まだまだできそうだ」という動機を高め、個別最適な学びや協働的な学びを充実させることが、主体的に運動や友達と関わろうとする元気はつらつな子どもを育てることにつながると考えた

●（高2）環境問題に興味が「全くない」「あまりない」と回答した生徒が26%，さらに環境問題の解決のための行動を「していない」と回答した生徒は61%となっており，環境問題への意識が高くないことが見て取れた。また，これまでの環境問題の単元における保健の学習指導の中で，学習プリントなどを用いて個人でできる対策を考えるという授業を展開したが，その場限りの取り組みになってしまい，生徒の課題解決力を育成するには不十分な内容であった点に課題が残った

→健康を支える環境づくりについての課題を解決することができる生徒を育てることは意義深いと考える

意欲的に
課題解決

「わかった」
「できた」
を実感

学習・運動
への意欲を
継続

「できた」
「楽しい」
を実感

他者と協働
しながら
運動する
楽しさを実感

運動遊びの
もつ楽しさ
に触れる

共に学び合い
運動の楽しさ
を味わう

仲間と協力
し合い、
グループの
課題解決を
図る

主体的に
運動課題を
解決

元気
はつらつな
子どもを
育てる

環境づくり
の課題を
解決できる
生徒の育成

仕組みと仕掛け

仕組み：何かを動かすための土台となるもの
構造や骨組み

仕掛け：その構造や骨組みを使って思うよう
な動きにするための工夫

仕組んだことは仕掛ける

仕掛けなしでは仕組みは機能しない

行い方, 見方
に基づいた
パワーアップ
タイム

コツの
共有シート

遊びを
広げる視点
の明確化

主運動に
つながる
リズム運動

振り返りの
ための
pointget
シート

絵・図, 動画,
作戦ボードの
活用による
チーム
ミーティング

ポイントを知る
視点に沿った
動きを選ぶ
発見タイム
(交流活動)

課題の把握,
修正, 解決に
つながる
ベストトーク
タイム

導入・展開・
終末の各段階
に適した
ICT活用と
話し合いの
視点の工夫

課題発見・
解決・振り返り
のねらいに
応じた
ルーブリック表

興味・関心
継続
再挑戦
の動機の
3段階設定

日々の実践の
振り返りが
できる
Ecoチェック
シート

●(小4) 技能差に応じた場の設定は一部有効であったが、**単元後半に進むにつれ、技が取り組める児童が増えたので、場を増やしたり、お互いに見合ったりして動きの修正や高めていくための時間設定を増やす必要がある。**

●(中2) 互いに観察し、教え合い活動を取り入れた活動では観察する時間が長くなり思うように練習を重ねることができない生徒も見られた。**今後は、運動時間のバランスを考える必要がある。**

●(小1) **自他の動きを伝え合い、実感するための視点を明確にしたICTの活用と対話活動の設定。**

●(高1) 事後のアンケートから、授業を通して変化のない生徒がいたため、グループの編成やルール作り、個別の支援等が必要である。振り返り活動をさらに円滑に行い学習効果を高めるために、グラウンドでの授業でも1人1台のタブレット端末を使用できるようにする必要がある。リズム運動において、使用する曲によってやる気が左右されたり、音楽に夢中になってリズム運動がおろそかになったりすることもあったため、音楽を持ちいる理由や目的を生徒にしっかり伝えていくことが必要である。

●（中2）単元計画のなかでICTを使用する場面を予め計画していたが、「このタイミングで使ったらより子どもたちの意欲につながったかもしれない」など反省点があるので、次年度はこの課題を改善していきたい。Pointgetシートの記述の視点については、今年の2年生は初めて防具をつけて剣道を行ったために、たくさんの視点について考えることがあった。1年生から防具をつけ、段階的に学習していくことで視点を絞り、より課題に向き合い、効果的に技能を高めていけるのではないかと考える。Pointgetシートでは、生徒が疑問に思う欄を追加することで、より生徒が何に悩んでいるかが教師側も見えてとれるので、シートの作り方を改善していく

●（小4）チームミーティングで活用する資料が多くなってしまう、目的に応じて活用することができていなかった。教師側で精選しておく必要がある。本研究で実践したボールゲーム以外の運動や他学年での実践を検討していく必要がある

●（小1）教師が例示した運動遊びが多く、1つ1つの運動遊びに取り組む時間が十分に確保できなかったため、単元でねらう動きが見に付いていない児童がいた。提示する運動遊びを精選する必要がある

●（小6）話し合いを行わせる際のタイムマネジメントが確実に行われていないことで、個と全体の既習を活かした学び合いを行うことができなかった。話し合いをさせる際、児童にどこまで話し合わせるかといった視点を明確にもち、確実に学び合う時間を設定する必要がある

●（中3）話し合い活動をすることで運動をする時間が短くなってしまった。今後は、話し合いの視点を絞り、もう少しわかりやすくしていきたい。運動が得意な生徒が意見を言う場面が多くあった。今後は、自分の意見を言えない生徒への手立てを考えていきたい

●(小5・6) 準備していた技がすべてできる児童に対してさらに発展技に取り組ませることができるように、今までのルーズブリック表を使って課題解決したことをもとに、教科書やお手本の動画から、Sの動きを見いださせ、取り組ませる活動なども検討していきたい

●(小5) 個人や集団の動きを可視化するために、ICTの効果的な活用を図る必要がある。運動の特性を踏まえたポイント提示の際に、だれもが、いつでも、どこでも使えるようなわかりやすいキーワードで示す必要がある

●(高2) 毎授業を「スライドを使用しての知識の習得」→「調査活動」→「ecoチェックシートの取り組みの記入」という流れで行ったが、調査活動の時間が少なかった。生徒の思考力、判断力、表現力を育成することを考えると最も時間を割くべき内容であるため、内容の組み立てを単元を通して再構築、調査活動の時間を十分確保する必要がある。対策を考えること及び実践することに主眼を置き、主題を設定したが、実践力を評価する材料や方法の整備が不十分であった。取り組みを実施したか否かで評価はできないため、何をもって実践力を評価するかを考える必要がある

断研では

**「研究授業」ではなく、
「授業研究」を行ってください**

予定調和的に成果が記述される実践報告ではなく、
結果（成果と課題）に対して信頼できる授業研究を

互いの「実践の知」を共有し、広げ、深めましょう